（学年）第１学年，（教科・科目）商業・簿記　　一斉学習

（単元）　決算整理　固定資産の減価償却

（本時のねらい）

固定資産は，買い入れ後の使用および時間の経過において価値の減少を生ずる。この減少額を費用に計上するとともに，固定資産の金額も同時に減少させることにより，決算日における固定資産の正しい価値を示す必要性を理解させる。

減価償却には，償却金額を求める方法として定額法と定率法，償却方法として直接法と間接法があるが，ここでは，定額法と直接法の組み合わせで学習する。

（ICT 活用方法）

タブレット端末と電子黒板を活用して，パワーポイントで作成したスライドを呈示することにより，減価償却の必要性から解説を行う。その後は，次の順序で学習を展開する。

・取得原価 120 万円の車両運搬具を，６年間で全額を償却する場合（定額法）
　取得原価と耐用年数をもとに，減価償却額を求める計算式を示す。

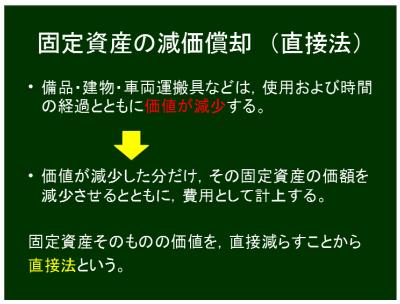
・求めた減価償却額を，仕訳に表す。（直接法）
　貸方に，減価償却の対象となる固定資産の勘定科目を記入することを示す。

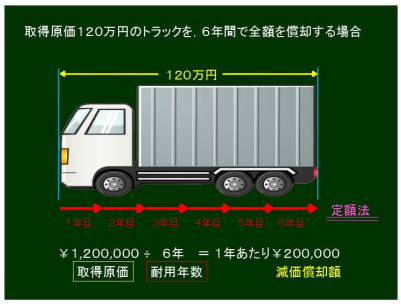
・取得原価 120 万円の車両運搬具を６年間で償却するが，残存価額がある場合
　取得原価から残存価額を差し引き，その残額と耐用年数をもとに減価償却額を求める計算式を示す。

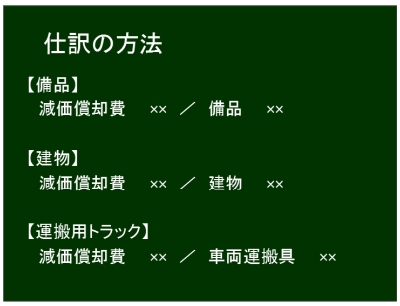
（本時の展開）

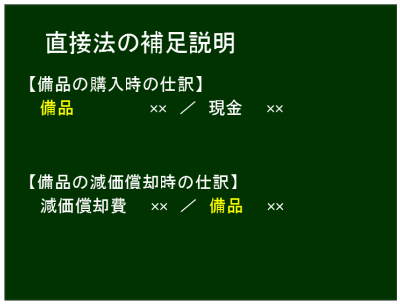
時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法	備考
導入 ５分	・なぜ，固定資産には減価償却が必要かを理解する。	・固定資産は長期にわたり使用することから，その価値を減少させるとともに，その減少額を費用として計上することにより，正しい決算整理が行えることに気づかせる。	・スライドを補助的に投影することにより，理解の促進を図る。	
展開 ３０分	・固定資産の全額に対して償却を行う手順を学ぶ。 ・求めた減価	・取得原価と耐用年数を意識させながら，定額法による計算方法を説明する。 ・直接法として仕訳	・車両運搬具を例にとり，トラックの画像を加えることで，減価償却の考え方をイメージ的に捉えられるように工夫する。 ・貸方に仕訳される要素を明	

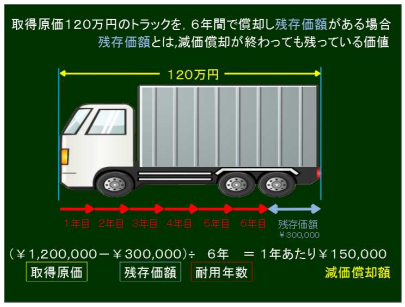
	償却額を仕訳として示す。 ・固定資産に残存価額がある場合の償却手順を学ぶ。	することに留意させる。 ・固定資産の全額に対して償却する計算結果と比較して，残存価額が償却額にどのような影響を及ぼすのか，その意味を意識させながら，計算方法を説明する。	示することで，理解の定着を促す。 ・再び車両運搬具を例にとり，トラックの画像に残存価額をを加えて，残存価額が減価償却に及ぼす影響をイメージ的に捉えられるように工夫する。	
まとめ １５分	・ワークブックの問題に取り組む。	・理解の定着が図られたか，机間巡視等を通して把握する。		











（生徒の反応と課題，改善を要する点）

タブレット端末と電子黒板を活用することで，教員が板書に要する時間を説明に充てることができるようになるとともに，電子黒板は移動可能なことから，効率的な板書計画が可能となった。

また，生徒はこの単元の場合，トラックというイメージ画像をもとに，①減価償却の計算方法，②残存価額の意味，③残存価額が償却額に及ぼす影響，を相互に関連づけることで，一連の手続きが正しく行えるよう理解が深まったと感じた。

簿記学習には，他にも理解が難しい（つまずきやすい）単元や，板書に時間がかかる帳票類が複数箇所あることから，限られた時間内で上手に ICT を活用していく授業づくりが重要であると考える。